

特別の教科 道徳

田部 彩香

1 特別の教科道徳の基本的な考え方

(1) 「共に生きることを学ぶ特別の教科道徳の授業づくり」とは

本校の研究主題である「共に生きることを学ぶ教科等の授業づくりー自他を尊重し、共に高め合う子供の育成をめざしてー」に向けて、特別の教科道徳の授業づくりでは、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、児童が多様な感じ方や考え方に接することや、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりすることが重要であると考ええる。

また、児童が一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかについては、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている姿も大切であるといえる。

そこで、本研究でめざす子供の姿を、「他者と対話したり協働したりしながら、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を、様々な視点から捉え考えようとする子供」と定義し、様々な視点を引き出すための授業づくりについて研究を進める。

(2) 問題解決的な学習の工夫について

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では、道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことであると示されている。また、児童が問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な感じ方や考え方によって学ぶことができるようにするためには、他者の考えと比べ自分の考えを深める展開の工夫が例に挙げられている。さらに、教師と児童、児童相互の話合いが十分に行われることが大切であり、教師の発問の仕方の工夫などが重要であることや、一斉による学習だけでなく、ペアや少人数グループなどでの学習形態の工夫も有効であると明記されている。

以上のことから、児童相互の話合いが十分に行われるための学習形態の工夫に焦点化して手立てを探る。

(3) 本校複式教育の「見守り型支援」について

新訂複式教育ハンドブック（広島大学附属東雲小学校，2024）では、本校の複式教育について、複式教育の特性を積極的に生かした実践の工夫を行うことで、児童の「自ら学ぶ力」「豊かな表現力」「他者とかかわりながらともに成長する力」を育成していきたいと示されている。そのために、本校では、両学年の児童たちが自分たちの力で学習の進行を行う授業形態を構想し実践している。教師は、児童が主体的に進める学習を異学年同時に見守りながら支援をしていく。これを「見守り型支援」と呼んでいる。また、複式学級の最大の特徴（よさ）は、異学年の児童が常に同じ教室内にいてることである。学びを共有する場を設定することで、少人数学級においても多様な考えに触れる場を保障することができると考えられている。

(4) 「見守り型支援」を取り入れた授業づくりについて

本校では、「見守り型支援」の充実に向けて、間接指導の中でいかに主体的に学習することができるようになるかを考え、四つの点を大切にして取り組みを進めている。

- ア 「課題把握―課題追求・解決―まとめ―適用・発展」の定着
 イ ワークシート、ノートの活用
 ウ 学習ガイドの活用
 エ 日直司会（学習リーダー、交替制）による学習の進行

本研究では、この「見守り型支援」に着目し、「見守り型支援」を取り入れた授業づくりを設定した。

自己の実践をふり返ると、これまで教師が黒板の前に立ち、発問や板書をしながら児童の考えをつないで話し合いを進めていたことから、児童相互が話し合う機会が少なかった。

そこで、今回は、課題追求・解決の時間に二つのグループに分かれて話し合う「話し合いタイム」を設定した。さらに、まとめの時間では、互いのグループの意見交流を行う中で、自分のグループにはない感じ方考え方を確かめることができるよう「学び合いタイム」を設定した。

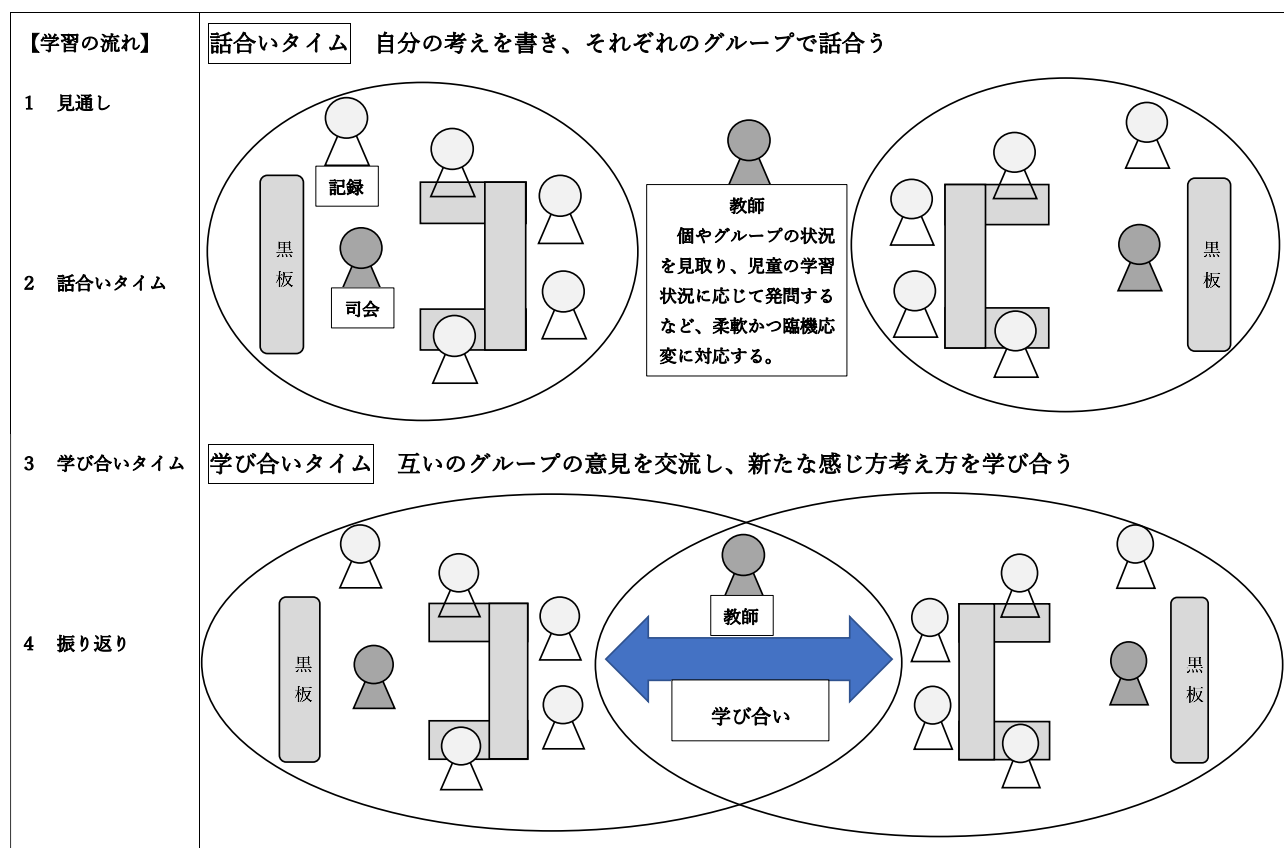


図1 「見守り型」支援を取り入れた授業づくり

「話し合いタイム」と「学び合いタイム」の二つの学習過程を「見守り型支援」を取り入れた授業づくりと設定し、上の図1に示した。

以上のことから、特別の教科道徳でめざす子供の姿と授業づくりの特徴を整理する。

特別の教科道徳でめざす子供の姿	特別の教科道徳の授業づくりの特徴
他者に対話したり協働したりしながら、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を、様々な視点から捉え考えようとする子供	・「話し合いタイム」と「学び合いタイム」の二つの学習過程からなる「見守り型支援」を取り入れた授業づくり

2 研究の目的

特別の教科道徳の授業において、「見守り型」支援を取り入れた授業づくりをすることによって、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考える姿が見られると研究仮説を立て、検証する。

3 研究の方法

研究の目的より、下記の二つの視点から検証を行う。

表1 研究の視点とその方法

	検証の視点	検証の方法
1	特別の教科道徳の授業において、多面的・多角的に考える姿が見られたか。	・ワークシートやノートの分析 ・発話分析
2	「見守り型」支援を取り入れた授業づくりは、多面的・多角的に考える姿を引き出すことに有効だったか。	・ワークシートやノートの分析 ・発話分析

【引用・参考文献】

文部科学省（2017），『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」』。
広島大学附属東雲小学校（2024），『新訂複式教育ハンドブック—今，改めて考える複式教育のよさと課題—』。